

# 県立新発田病院の ベッドの利用状況と課題

県立新発田病院病床管理委員会

看護副部長

佐藤順子

# 話の内容

- 1 新病院のベッド数の変化
- 2 入院の内訳
- 3 救急入院のための1日必要ベッド数は
- 4 病棟のベッドの利用状況
- 5 ベッドが足りない！
- 6 地域でベッドを大切に使うには

# 1. 新病院のベッド数の変化

- ベッド数の変化 **減少したのに**

旧病院 500床→新病院 478床

一般病棟（精神科除く） 450床→397床

（旧病院の88%に減）

- 入院患者数 **増加した**

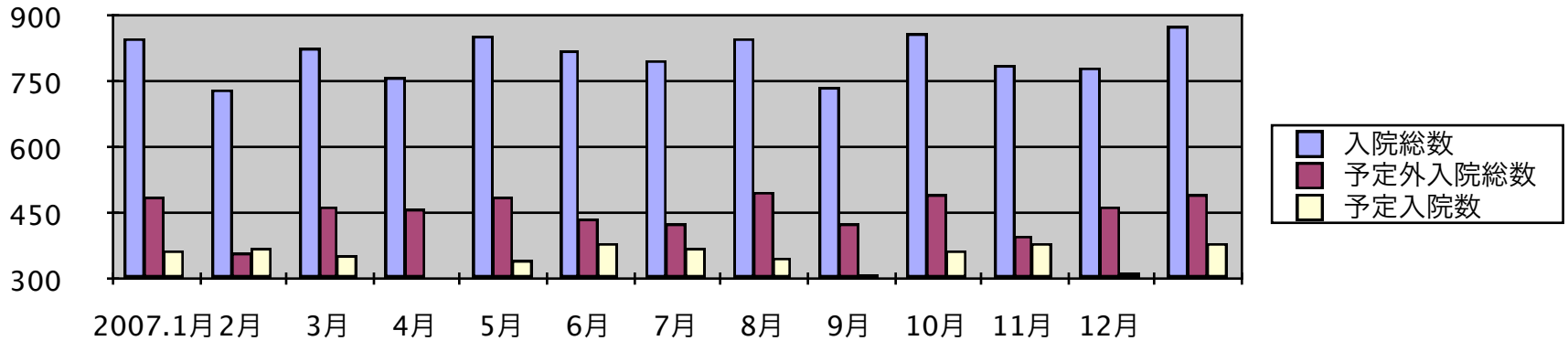
H17年 13,415人

H18年 12,762人

H19年 13,854人

# 2.入院の内訳

入院の内訳（予定入院と予定外入院）



• 月平均入院総数 811人

予定外入院総数 456人

予定入院総数 354人

# 予定外入院が多いということ

- 急患の予定入院が多い

→ 予定入院用のベッドがなくなる

→ 予定入院の患者さんが延期となる

実際に朝

師長から入院延期の依頼の電話

医師から手術、検査の延期や退院

患者さんからは「どうして私なんですか」の苦情

# 3. 救急入院のための必要ベッド数

- 救命救急外来から入院 平日平均 8人
  - 一般外来から入院 平日平均 9人
- 合計平日1日 17人分必要
- 休日救命救急センターから入院 12人分

## 週末から月曜の朝までには

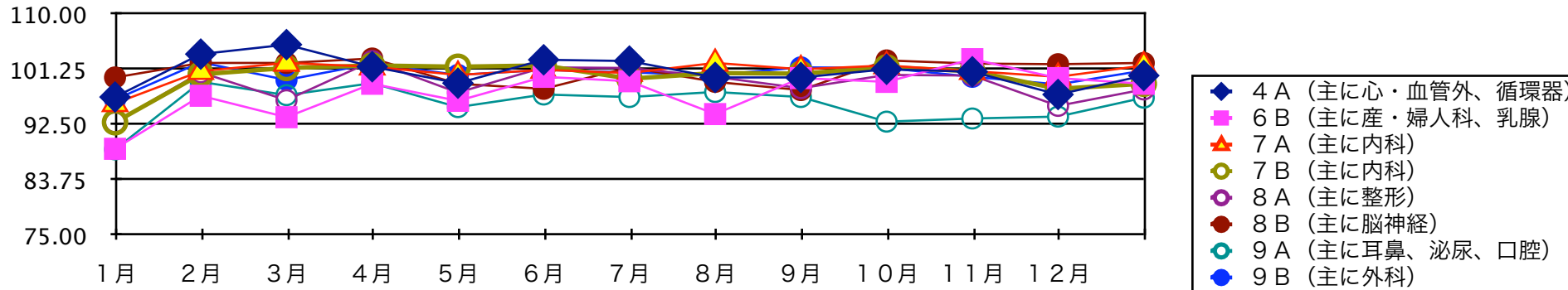
土日分  $12人 \times 2日 = 24人$

月曜日入院25人程度

合計約 50人分のベッド必要 (一般病棟の13%)

# 4.病棟のベッドの利用状況

病棟累積利用率



- いつもほとんど満床
- 午前の退院を待って入院患者さんが入る
- 急な入院には処置室で待機をお願いしている

## 5. ベッドが足りない！

- 三次救急のみの対応となった件数

H19年10月（2件）

11月（4件）

12月（2件）

H20年 1月（12件）

2月（連日）

新発田病院が、かかりつけでも入院できない

# 事例

- H19年11月19日、11月20日、12月10日

入院ベッド不足

朝 師長が患者さんの自宅へ入院延期依頼

- H20年1月10日（木）

近隣病院も満床

新潟木戸病院、桑名病院に連絡し、ベッドを

確保。実際は具合の良い患者さんに、退院してい

ただき、処置室待機の患者さん16時ころ入院。

# 事例

- H20年1月22日      予定入院    6人分不足  
    入院延期    1人    検査せず退院    1人  
    感染症の専用ベッドに    3人入院  
その後、追加の退院ベッドに部屋移動  
夕方までどの病棟も調整つかない状況

# 患者さんからの苦情

- 「入院延期」 について

せっかく休みをとってきたのに。  
病気悪くならないでしょうね。

- 「退院のお願い」 について

状態もまだ良くないのに、医者も師長も  
退院のことばかり。

# 医療者の苦情

- 自分の外来で診ている患者さんが入院できないなんて。
- 救急を受けるには、もう少し様子を診たい患者さんを退院させないと受け入れられない。
- 紹介する病院も（満床で）ありません。
- 部屋移動ばかりでひたすら謝罪状態です。

## 6. 地域でベッドを大切に使うには

- **地域全体で取り組む必要性**

- ①新発田地域全体で平均在院日数短縮
- ②空床の一元管理のしくみ
- ③一次救急の整理
- ④在宅医療、療養の支援

# お願い

- 医師が退院をお願いしたらご協力をお願いいたします。

一番つらい時期は新発田病院で  
あとは、  
お互い様で。ゆずりあいを。